

福祉環境委員会会議録

令和 2 年 1 月 30 日(木)
9 時 59 分～11 時 53 分
全員協議会室

【委 員】 柳楽委員長、村武副委員長

沖田委員、小川委員、岡本委員、佐々木委員、田畑委員、澁谷委員

【議 長・委員外議員】三浦議員、永見議員、飛野議員、西川議員、上野議員、

西村議員、芦谷議員

【福祉環境委員会 所管管理職】

〔健康福祉部〕前木健康福祉部長、井上地域福祉課長、久保健康医療対策課長、

湯浅健康医療対策課副参事、河上子育て支援課長

〔市民生活部〕斗光市民生活部長、猪木迫保険年金課長、野田環境課長

〔金城支所〕吉永金城支所長

〔旭 支 所〕塚田旭支所長

〔弥栄支所〕岩田弥栄支所長

〔三隅支所〕田城三隅支所長

〔上下水道部〕坂田上下水道部長、坂田管理課長、新森工務課長

【事務局】 新開書記

議 題

1 執行部報告事項

(1) 浜田市休日応急診療所の診療時間の変更について

【健康医療対策課】

(2) 未婚の児童扶養手当受給者に対する臨時・特別給付金の実績について

【子育て支援課】

(3) 浜田市子育て世代包括支援センター（浜田市子育て支援センター「すくすく」）基本構想について

【子育て支援課】

(4) 令和 2 年度国民健康保険事業費納付金（本算定）について

【保険年金課】

(5) 電気自動車急速充電器の休止について

【環境課】

(6) 水道料金改定に伴う市民周知の状況等について

【管理課】

(7) 工業用水道の使用水量の増加見込みについて

【管理課】

(8) その他

2 その他

(1) 地域井戸端会の集約意見について

(2) その他

【以下詳細は会議録のとおり】

【会議録】

(開 議 09 時 59 分)

柳楽委員長	ただいまから福祉環境委員会を開会する。出席委員は 8 名で定足数に達している。 早速議題に入る。
-------	---

1 執行部報告事項

(1) 浜田市休日応急診療所の診療時間の変更について

柳楽委員長	健康医療対策課長。
健康医療対策課長	(以下、資料をもとに説明)
柳楽委員長	それでは、3 月定例会議に上程されるということなので、事前審査にならない程度で質疑を行う。委員から質疑はないか。
小川委員	働き方改革の狙いもあるとのことだが、医師会から要望があったのか。
健康医療対策課長	先程の表でも見ていただいたとおり、非常に少ない時間があり、ぼんやり拘束されている時間があるということは、休日診療運営会議等でも話が出ていた。
小川委員	他市の状況比較の表も資料にはあり、近隣の市より恵まれているという比較表なのかもしれないが、拘束時間を短くすることにする財政的なものは直接関係しているか。
健康医療対策課長	特にはない。患者数がもともと少なく、周知すれば影響は少ないと思われる。
小川委員	他市と比較して浜田市は遅くまであけてもらっている。医師会の方から近隣のように 13 時までといった要望はあったか。
健康医療対策課長	休日診療の運営をどうするかといった会議で出た話も踏まえ、アンケートによる照会も行った。午前中だけでも良いのではといった声もあったが、今回のような形での提案とさせてもらった。
柳楽委員長	他に。 (「なし」という声あり)

(2) 未婚の児童扶養手当受給者に対する臨時・特別給付金の実績について

(3) 浜田市子育て世代包括支援センター（浜田市子育て支援センター「すくすく」）
基本構想について

柳楽委員長	2 件まとめて説明を願う。子育て支援課長。
-------	-----------------------

子育て支援課長	(以下、資料をもとに説明)
柳楽委員長	それでは質疑を行う。(2)について委員から質疑はないか。 (「なし」という声あり) (3)について委員から質疑はないか。
澁谷委員	スケジュールだが、今の浜田市の出生数は急激に落ち込んでいるが、どのくらいになりそうか。
子育て支援課長	今年度は 350 人前後と思われる。
澁谷委員	400 人を割ると急激に減るという例に沿っているのでは。子育て世代に対するアピールとして取り組まないと、ひと月でもふた月でも早く開設すべきでは。より充実させて取り組まないといけないのではないかな。
子育て支援課長	何とかしなければいけない気持ちはある。何とか支援していきたい。そのためには基本構想のパブリックコメントにしても、子育て世代の親御さんから期待を込められている。中期財政計画等で決められているので実施設計で年度をまたぐのは難しいかもしれないが、オープンについては建築工事をできるだけ早めに、前倒しできるようにしたい。
澁谷委員	中期財政計画に基づいて進めるのはナンセンス。実施設計と建築工事を短縮する。実施設計に 1 年かかるのか。基本設計もできている。そんなにかからないのでは。どうにかしてオープン期日を、少なくとも半年は早めてほしい。でないと今の危機的状況を脱却できない。 またアピールについて、SNS や広報を使ってほしい。
子育て支援課長	当課でやれる限りのことを積極的に行いたい。しかしこのスケジュールは関係各課と協議する。当課としては前向きにやりたい。
澁谷委員	部長はどうか。
健康福祉部長	課長が言ったとおり、努力はする。
岡本委員	転勤族の方々が少なくなった。その方々は幼稚園に行ってもらったり家庭保育をされる中で、悩みをセンターへ行って相談されている。しかし現在、状況が変化しつつある中、親御さんとセンターはどう関わるか。どう改善されるか。
子育て支援課長	整備するにあたってはそこが一番の問題点。日曜日、祝日が閉

岡本委員

まっているのが大きな問題だと思っている。しかし、休日保育と併設で日曜を開けるのが困難な状況である。新しいところでは、休日保育をやりながら日曜日、祝日しっかり遊んでいただける、保育園に来ておられる方も利用できる。保育園との関わりだが、支援センター直接ではないが、何かを介したつながりを持ち、子育て支援センター、子育て支援課等連携しあっていきたい。

子育て支援課長

次のステップの中でしっかり対応はしていただきたい。併せて、今は働き方改革があり、職員のスキルアップもある。保育士さんに定期的に集まっていただき、講演会・講習会が必要だと思っている。子育て支援センターと何か関係があるか。

岡本委員

今はどちらかという親子を見守ったり、支援するセンターになっている。保育士のスキルアップについては保育所関係の話。先日、研修会を開いた。保育所や幼稚園の先生のスキルアップは今後もそちらで進めていく。

子育て支援課長

子育て支援センターとは直接関係ないということか。状況把握、情報交換も含め、ここにいろいろなことが集まるシステムがあった方が良いと思っている。会場をここにできないかと言っている。

佐々木委員

今現在もやろうと思えばできると思う。ただ、それぞれの役割がある。センターが持つ役割、保育所の役割、当課の役割、それぞれの役割を果たすためにどうしたら良いか、一番効率が良いかを検討していきたい。今は保育士さんの育成とかスキルアップとセンターは直接関わりがない。今後は検討していく。

健康福祉部長

3 ページに出生数推移が出ている。今年度の 12 月末で 259 人と聞いた。26 年から見ると約 100 人程度減っている。まさに危機的状況だと思う。おそらく浜田市だけではない。市政運営ができなくなるような、市の課題だと思う。とても所管部課だけでは対応しきれない問題だと思う。市長も大きな課題だと思われていると思う。市全体での対応状況が知りたい。

おっしゃるとおり心配している。少子化と人口減少は大きな問題だと共通認識がある。地域政策部が浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討委員会といった組織を持っている。少子化の要因の 1 つとして、20 代、30 代の減少が激しい。そういった若い世代を増やさないと少子化は改善しないイメージを持っている。

	具体的な対策についてはこれからだと思う。今後の課題である。
佐々木委員	危機感を過ぎて、危機的状況だと私は思っている。U・I ターン等の対策も出ている。特にUターン。若者にいかに残ってもらうかに力を入れていかないと、市の運営ができなくなる。是非、全市をあげてスピーディな対応をお願いしたい。
健康福祉部長	全庁的な組織を持っているので、そこで検討していきたい。
沖田委員	子育て関連の情報発信、メディアを通じた情報提供とあるが、スマホ等を使うのか。
子育て支援課長	浜田市ホームページにサイトがあるので、そこからの情報発信になろうかと思う。スマホについてはとても悩ましい。スピーディに情報が入る反面、スマホに頼ることを当課ではあまり良しと思っていない。親御さんはスマホをさわり、子どもはタブレットを見て、お互い背を向けているような場面を目にするとやるせない。一方、今はスマホ時代なのでスマホを活用しないと情報が届きにくいのも事実だと思っている。
沖田委員	課長の言われるとおりだと思う。一方で、育児中で外に出られない場合はスマホが唯一の情報源になっている。間違った情報を信じないようにするのも大事。スマホも使い方だと思う。そこも踏まえて検討された方が良いと思う。
子育て支援課長	検討させていただく。メディアとの関わり方については生涯学習課も課題としており、出前講座等もやっているが、今の親御さんに声が届きにくい。解決策を講じていきたい。
村武副委員長	私の知っている子育て世代の方たちもセンターを楽しみにしていらっしゃる。事業活動にいろいろ書いてあるが、具体的にどういうことをするのか。
子育て支援課長	ここに書いてあることを念頭に置きながら、来年度の実施設計の中においても、ここにあるようなことをどのように取り入れるか少しでも検討を進めたい。ニーズに合わせていきたい。
村武副委員長	ニーズをくみ取りながらと言われたが、子育て世代の方々のニーズをどのように集めるのか。
子育て支援課長	パブリックコメントについても、こちらからお願いすれば各種団体は皆さん声を集めて、情報を寄せて提案してくださった。うちから出向いて行ってでも、子育てに関わる方々の生の声を集め

	たい。
村武副委員長	生の声を聞くことが重要なので、なるべく多くの子育て世代の方々の声を聞いていただきたい。
澁谷委員	やり取りを聞いていて疑問に思う。全国の自治体の中でも先進自治体は、養育費を自治体が立替えて、自治体から男性へ請求するといったことをやっている。非常にハードルが高く、浜田でそれをするのは難しい。先進地は子育て支援アプリを導入し、情報の収集、発信は当たり前になっている。それを今からやる、検討するというのは話にならない。医療費の問題、子育ての保育園に行くまでの、出産祝金等いろんな支援方法がある。できることはどんどんやってもらわないと話にならない。今検討しているとか、できない理由を述べている余裕は浜田市にはない。合併算定替えがなくなる中、一方でいろんな箱ものをやろうとしている。他自治体の取組と差が開くばかり。社会動態、自然動態もマイナスで、浜田市は毎年 400 億円もの予算を使っており、その上ここまで人口が減っている。このような自治体は他にない。できることはやっていたらいいと、是非検討してほしい。
柳楽委員長	ここで相談を受けてくださる担当者は、どういった方を考えておられるか。
子育て支援課長	現在も育児相談を保健師、栄養士、助産師等が受けている。より一層保健師の数を増やし、保健師、助産師、栄養士、保育士といったいろいろな専門職をそろえて相談に対応しようと思っている。
柳楽委員長	精神的な面等も大切だと思うが、保健師などで十分に相談に乗れるのか。
子育て支援課長	子育て支援課の保健師は県の研修等、年間通じてかなりの量の研修をこなしており、一定の悩みには答えられると思う。もし対応しきれない重い相談の場合は横の連携で対応する。
統括保健師	現在もやっているが、支援センターでカウンセラーの先生に来ていただくこともあるので、直接そちらに相談される方がいる。いったん受けて、カウンセラーの先生を紹介することもある。
柳楽委員長	病後児保育についてだが、検討の中で、医療センター横に設置するなら病児・病後児保育も対応できるように思うが、今のところ

子育て支援課長	ろその考えはないか。
	いろいろ検討した。病児保育を浜田市としては早く設置したい。別案件として進めている。
柳楽委員長	他に。
	(「なし」という声あり)

(4) 令和 2 年度国民健康保険事業費納付金（本算定）について

柳楽委員長	保険年金課長。
保険年金課長	(以下、資料をもとに説明)
柳楽委員長	それでは質疑を行う。委員から質疑はないか。
澁谷委員	2 ページ目の表は今までにない努力の跡が見え、敬意を表する。昨年並みの運営ができそうな話に聞こえた。限度額を上げてきそうな感触等はどうか。
保険年金課長	限度額は上がると官報に掲載されていた。医療分が 61 万円か 63 万。介護分 16 万円から 17 万円。トータルで 96 万円から 99 万円に法律が変わる。
澁谷委員	3 万円分は一般会計から補てんをするといった話はどうか。
市民生活部長	今のところ話す予定はない。国の法律どおりにやる予定である。
柳楽委員長	他に。
	(「なし」という声あり)

(5) 電気自動車急速充電器の休止について

柳楽委員長	環境課長。
環境課長	(以下、資料をもとに説明)
柳楽委員長	それでは質疑を行う。委員から質疑はないか。
小川委員	浜田市として管理費、電気量負担はこの 1 か所のみで、あとの 14 か所は関わっていないか。
環境課長	そのとおり。
小川委員	電気自動車の普及が目的だったそうだが、現状を見ると普及しているとは言い難いように思える。担当課はどのように認識しているか。
環境課長	浜田市内でどのくらいという数字はつかんでいないが、充電器自体はかなり利用が増えているため、台数は増えているものと考え

	える。
小川委員	市外・市内でどのくらいの方が利用しているかは把握しているか。
環境課長	把握できていない。
小川委員	これだけの経費を負担した効果について、どのように分析しているか。
環境課長	お魚センターを利用される方の集客に寄与した部分もあると思っている。
澁谷委員	充電器をなぜゆうひパークに設置しないのかと私はずっと言ってきた。お魚センターから撤去して市に設置する、または公用車を電気自動車に替えるなど、環境問題に率先して取り組む姿勢を見せるのが行政の使命だと思う。是非検討していただきたい。
佐々木委員	自動車メーカーからせっかく寄贈してもらったものに対して、このような対応で良いのか。
環境課長	寄贈を受けた日産自動車からも了解を得ている。
佐々木委員	利用状況も表で示されているが、1日あたり7台でかなりの利用頻度だと思う。これが市の負担で、他の設置はそれぞれ自己負担なのか。
環境課長	自動車メーカー等に設置されているものは自己負担である。
佐々木委員	車の持ち主が負担するのか。
環境課長	他の場所については有料になっている。無料なのはお魚センターとアクアス駐車場のみ。他は会員制で月額使用料を払ったり、利用時間による料金を払うシステムになっている。
佐々木委員	利用者は無料で利用できる場所を選ぶだろう。浜田市としても貢献度がある取組の1つだと思う。それをなくすとなると、電気自動車購入の流れが変わってくるのではと思うが、あまり意識していないのか。
環境課長	車の購入については意識がないが、新しく整備される公設市場に新しいものを設置するかどうかは水産振興課と協議している。
佐々木委員	これは移転して使えるようなものではないのか。
環境課長	今の機械自体は古いので移転して使えるものではない。
柳楽委員長	他に。

(「なし」 という声あり)

[11 時 03 分 休憩]

[11 時 12 分 再開]

(6) 水道料金改定に伴う市民周知の状況等について

(7) 工業用水道の使用水量の増加見込みについて

柳楽委員長	2 件まとめて説明を願う。管理課長。
管理課長	(以下、資料をもとに説明)
柳楽委員長	それでは質疑を行う。(6)について委員から質疑はないか。
岡本委員	現在、市内の浜田川の南側、水道本管工事が進められている。私の近くに資材置き場があり、そこにある掘り起こされた管と、これから埋設する管の口径が違うのだが。見るからに 100 くらい違う。
工務課長	大辻町の工事についてご指摘いただいた。市内 5 本の工事を出している。工事を行うのは菅網計算。必要な径を計算し、それをもとに管の更新をしている。一番管の口径が変わるのは、ご指摘のあった大辻町のまわり。昔は市街地に水を送るのは石原配水池。海岸線を通り 400 ミリの管で送っていた。これが 10 年前、竹迫配水池に切り替えた。経路がずいぶん変わったので、大辻町あたりは末端になり管の口径が小さくなる。また、古い管でかなり腐食が進んでいると聞いている。鉄管はどうしても錆が回る。今回の管は少し高級で、耐震性でコーティングも施し、長寿命化している。
岡本委員	管のコーティングについて説明してほしい。
工務課長	外側は鋳鉄。多少粘る素材で作る。中のコーティングは、昔はセメント系だったが、今はプラスチック系を施している。耐震性のものは継手の形がずいぶん違う。
岡本委員	地震の揺れに対して影響を受けるのは継手部分。継手はベアリングを変化させてみたり、ゴムにしたりするようだが、その辺の構造はどうか。
工務課長	構造もだが、中に使うゴムも少しずつ変化させている。鋳鉄管以外に、小さい口径の所にはポリエチレン管も使っている。
岡本委員	その工事費もかかるから、料金も上がると想像する。どのようなアピールをしているか。

管理課長	工事個別でどうこうというのはないが、工事に伴う料金改定については説明をしている。みなさんにご理解いただけるよう進めている。
工務課長	ホームページで水道工事の工事情報を出させてもらっている。宣伝が少ない気はしている。地図を出している。
柳楽委員長	他に。 (「なし」 という声あり) (7)については3月定例会議に上程を予定されているので、事前審査にならない範囲で、委員から質疑はないか。
田畑委員	9500トンというと塩害が出る可能性があるが、塩害調査はしているか。
工務課長	毎年水質試験をしている。また、毎日監視施設で監視している。平成5年からずっとデータを取っており、簡易水道施設と工業用水施設、どちらも記録を取っている。三隅川の下流に昔あった簡易水道は深さ約15メートル程度と浅く、休止させていただく。第3は平成14年と25年に塩素濃度が上がったことがある。位置を調整したので現在は塩害はない。基準は80だが、10前後程度で推移して安定している。井戸の深さが違うので、取っている層が違うのだろう。塩害については大丈夫だと思われる。
田畑委員	9号線から中央会館へ行く橋あたりは海との高低差が1、2メートルしかなく、あそこまでは塩害がきている。中国電力に送水し始めてから。それより上流で工業用水を抜くと、農地へ向かって塩水が上がってきて、作物ができない恐れがある。工業用水だから仕方ないで済む問題ではないので再度研究してほしい。
工務課長	2号機建設にあたり中国電力と協議している。水量問題と塩害問題について相談し、発生したらどうするかも話し合っている。毎日モニタリングしながら、塩素濃度が上がってくればすぐに協議する。仮に給水停止があっても、中国管内にいろいろな発電所がありますので柔軟な対応ができると聞いている。
澁谷委員	料金改定についてを読むと、水量が増えるし設備投資予定がないので単価を安くするという意味だと思う。単価を安くすることは中国電力が喜ぶのか疑問に思う。中国電力は地域貢献を柱にされている。値段を下げるより、明らかに中国電力の貢献度合いを

管理課長

きちんとアピールしてあげて、その収益部分はプールしておくべきではないか。中国電力の貢献や宣伝効果を考えれば、大きく値段設定を変える必要はないのでは。話し合いは必要と思いますが、努力した後で結論を出すべきではないか。

公共水道事業そのものがスタートした時にさかのぼると、工業団地を作り廉価な水を提供して地域活性化を図るのが一般的なものの。受益者企業が3社しかない。95パーセントを中国電力が使う。この制度そのものが利潤を生んで何某を使えるというのはこの会計の中で完結しなければいけない事業なので、利益を持てる事業ではない。料金の水準を決めるにあたってはこれからの設備更新、何かがあった時の修繕費等を確保した上での水道料金を設定するのみで、それ以上を想定していない。他に使えるお金でもない。制度的な仕組みをご理解いただければと思う。

澁谷委員

特別会計なので流用できないというのが法的理屈なのだろうが。老朽管がどんどん増えて、都市基盤整備として財源が厳しいのに一般会計から補てんせざるを得なくなることが推測されることを考えると、この宝のような財源を手放すのか。調査検討していただきたい。

管理課長

上水道事業は非常に厳しい中、管路更新等を進めている事実がある。工業用水道事業は別物。相手との話もちろんする。上水道と工業用水道は所管する省庁も異なる。

柳楽委員長

その他。

(「なし」という声あり)

(8) その他

柳楽委員長

その他、執行部から何かないか。

(「ありません」という声あり)

委員から何かないか。

佐々木委員

日に日に大きな報道になっている新型ウイルスについて。何か情報提供があればお聞きしたい。

健康医療対策課副参事

新型コロナウイルスに関連した肺炎は、1月16日保健所から、保健所の相談窓口につないでほしいと連絡を受けている。市ホームページにも情報を載せている。1月28日に指定感染症の閣議決

	定をされて2月7日から適用。それを受けて、島根県は危機管理会議をしていて情報提供もいただいている。このウイルスの検査を県内でも受けられるように進めている。予防についてはインフルエンザと同じ対応で手洗い、マスクをする。保菌が疑わしい人、中国の渡航歴がある人等、保菌の心配がある人には情報提供を進めている。
佐々木委員 健康医療対策課副参事	検査ができないという表現があったが 地方では検査ができない。今は国立感染症センターに検体を送ることになっている。検査を実施する医療機関も指定がある。保健所から連携が取れるようにしている。地方でも検査ができるよう体制整備を進めている。
柳楽委員長	他に。 (「なし」という声あり) ではここで、執行部から報告のあった7件について、2月7日予定の全員協議会にて説明すべきものを決定したい。まず執行部の意向を伺う。地域福祉課長。
地域福祉課長	今回はなしとさせていただきたい。
柳楽委員長	執行部の意向が示された。委員から意義はあるか。
佐々木委員	子育て支援センター基本構想については、重要案件でもあるが良いのか。
柳楽委員長	子育て支援センターについては報告をした方が良いのではという趣旨だと思うが。執行部の意向どおりで良いか。 (「はい」という声あり) では以上のとおり決定とする。 執行部の方はこれで退席されて構わない。

《 執行部退席 》

2 その他

(1) 地域井戸端会の集約意見について

柳楽委員長	地域井戸端会の集約意見の福祉環境委員会分を、本日の委員会フォルダに配信している。各自内容をご確認いただきたい。
-------	---

(2) その他

柳楽委員長	その他、委員から何かあるか。
-------	----------------

(「なし」という声あり)

以上で、福祉環境委員会を終了する。

(閉 議 11 時 53 分)

浜田市議会委員会条例第 65 条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

福祉環境委員長 柳楽 真智子 ⑩